

第3学年音楽科指導案

1 題材名 「思いを歌に込めて合唱しよう」

教材名 「友 ～旅立ちの時～」

2 題材について

《新学習指導要領とのかかわり》

A 表現 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

【共通事項】 音色 リズム 旋律 強弱 テクスチャ

(1) 題材観

生徒達のまわりには様々な音楽があふれている。J ポップや洋楽などの多様なジャンルに触れる機会が多く、自分の好きな音楽を個人で楽しむことができる。その一方、好きな音楽の良さを他と共有し、それぞれが感じた思いを誰かに伝えるために表現する機会が少ないと感じている。

自分の思いを込めて表現するには、詩や曲想を味わい、自己のイメージや感情を深めることが大切である。そして、互いに伝え合いながら音楽を作り上げていく活動を繰り返していくことにより、深まりのある合唱表現を作り上げていけるのではないかと思う。

本題材は、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とのかかわりを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して合唱することをねらいとする。生徒達は、歌詞に込められたメッセージを理解し、楽曲と自分たちの思いや意図を重ね合わせることで、音楽に主体的に取り組むことができる。自ずとそこには、自分たちの歌唱表現を作り上げる必然性が生まれ、どのように歌ったら作詞者・作曲者の思いを伝えることができるのかといった表現意図が明確になり、表現も深まっていくであろう。自己のイメージや感情を歌詞の内容や曲想とかわらせ創意工夫して表現する力は、音楽表現を質的に深めていくという点において重要である。本題材を通し、義務教育9年間の音楽科学習で培ってきたものを、自らの歌唱表現に生かすことができるようにしたい。さらには、自分たちの求める音楽表現を仲間とともに交流、共有、共感しながら作り上げる、いわば中学校3年間の合唱活動の集大成の場としたい。

(2) 指導観

3年も後半になり、いよいよ中学生生活の集大成を迎える。卒業式歌の合唱活動を通し、これまでの中学校生活を振り返り自分なりに思いをもち、表現したいイメージを伝え合い、共有する時間を意図的・計画的に取り、自分達で合唱を作り上げる主体的な活動となるようにしていきたい。そのために、楽譜に個人の思いや意図を書き込み、パート会議でその思いや意図を伝え合い、拡大譜に

それぞれの思いや意図を書き込み、全体で共有していく過程を大切にしたい。そのように可視化し共有することで、自分たちの合唱を作っていくという実感が湧いてくるであろう。また、創意工夫の過程において録音を視聴し、比較鑑賞をすることで、課題意識を持って主体的に合唱活動に取り組むことができると思う。

「友～旅立ちの時～」は、2013年度NHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲として、発表された「ゆず」の曲である。「ゆず」は、生徒たちにとって馴染みのあるデュオの歌手である。この楽曲は、親しみやすいメロディー、気持ちが自然と高まるような構成、ユニゾンやハーモニー、各パートのかけあいの面白さ、アウフタクトやシンコーション、十六分音符などのリズムによる軽やかさが特徴である。歌詞は「今まで一緒に頑張ってきた友達への思い」、「語り合った友と別れを告げて、未来へ向かっていく」という内容が中学生にとって身近で明解な言葉でつづられており、自分たちの思いをのせて歌うことができる楽曲である。

授業では、根拠をもって歌詞と音楽のかかわりを考えさせていきたい。そのために、まず始めに詩の朗読をさせ、言葉や文に対するイメージを持ち、歌詞の内容に共感させる。それを基にして、旋律やハーモニー、音楽記号や用語から表現意図を考えさせていく。

また、創意工夫の過程において技能の習得に関する学習を位置づけしていく。例えば、歌詞の内容から「言葉を大切にしながらつなげるように歌いたい」という思いや意図をもったとき、言葉が伝わりやすい発音の仕方とフレーズを意識した息の使い方とを関わらせるなど、複数の技能を関わらせて、よりふさわしい歌い方を工夫しながら技能を身に付けさせていく。さらに、合唱においては他者や他の声部の声、全体の響きなどを意識して、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じながら技能を身に付けていくことができるようにすることが大切である。各声部の役割と声量のバランスを踏まえ、強弱の変化について創意工夫したことを生かし、合わせて歌えるようにするために、他の声部の声量や声質に合わせて、自分の声量や発声を調節できるように歌い方を工夫させていきたい。

3 題材の目標

曲想と音楽の構造や歌詞の内容とのかかわりを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して合唱する。

4 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、体の使い方を身に付けて歌っている。

5 研究の視点

【視点1 9年間を見通した学び方の共有】

児童・生徒の音楽的な資質・能力を伸ばしていくためには、自らの主体性を発揮して、音楽の学習に臨み続けることが必要であると考え。表現活動においては、範唱や範奏からよさを見つけて「こんなふうに演奏したい」と関心をもち、自分たちの演奏と比べ、「どのようにすればこのような演奏ができるのか」と課題を見つけ、よりよい演奏を目指すための創意工夫をする。この創意工夫する過程が学習の基盤であり、9年間の学び方の共有となる。その実現のために以下を柱に授業を組み立てる。

○発達段階を基にした活動の設定

中学校学習指導要領の1学年における表現では、歌唱分野における「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力である、「歌唱表現を創意工夫することができるようにする」ことをねらいとしている。曲に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形作っている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい歌唱表現について考え、どのように歌唱表現するかについて思いや意図をもつことである。それが第2学年及び第3学年になると、「曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができるようにする」ことをねらいとしている。創意工夫を生かした表現で歌うためには、必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を、第1学年から身に付けさせることで、創意工夫の質的な高まりが期待できる。

そこで中学校に入学し合唱活動が始まる段階から、響く歌声づくりを目指し、腹式呼吸のトレーニングや発声練習を行う。まずは声を出す雰囲気作りからだが、授業を進めていく段階で、もっとこういう合唱にしていきたいという生徒の思いが高まり、始めはただ何気なく行っていたトレーニングが、創意工夫を生かした表現で歌うためにつながっていく。そして、3学年になると、歌詞を考えるなど、複数の技能を関わらせて、よりよい歌い方を工夫しながら技能を身に付けていく。

○生徒の考えを基にした授業づくり

生徒が自己の成長を確かめつつ、新たな課題に向かって主体的に表現するためには、学習の見通しを持たせることが大切である。生徒が「さらによいものにする」ということを考えて、めあてをもって学習に臨めるようにする。そのためには、教師からの一方的なめあての提示ではなく、生徒の疑問や課題意識を引き出すような手立てが必要となる。

中学校における合唱活動では、リーダーや教師からの一方通行の指示で歌うのではなく、パート会議において互いの思いや意図を伝え合ったり、教師と生徒との対話を通して歌い方を工夫したりするなどの過程に重点を置きたい。本時ではこれらの活動を十分に行い、生徒の課題意識を引き出していく。そのためには、一人一人に根拠をもって歌詞と音楽のかかわりを考えさせることが大切である。歌詞にある言葉や文に対するイメージを持たせ、それを基にして旋律やハーモニー、音楽記号や音楽用語から表現意図を考えさせていきたい。

以上のような柱で授業を行うことで、9年間の集大成として、歌詞と曲想を関わらせて、曲にふさわしい合唱を自分たちで作りあげていけると考える。

6 題材の指導計画及び評価計画

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
1 次	1	ねらい 「友 ～旅立ちの時～」の曲の特徴をとらえ、旋律を歌えるようにする ○歌詞や曲の特徴をとらえる。	・歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)
	2	○それぞれのパートの音を聴きながら、響きのあるハーモニーを作る。 ・他のパートとの重なりを聴きながら歌う。	
2 次 (本時)	3	ねらい 曲のメッセージを感じ取り、自分の思いをのせた表現を工夫する ○詩の作られた背景を理解し、合唱する。 ・歌詞を読み、歌詞の内容や曲の雰囲気をつかむ。	・音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫) ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、体の使い方を身に付けて歌っている。 (音楽表現の技能)
	4	○録音をし、課題を見つける。 ・録音した自分達の合唱を聴き、課題を見つける。	
	4	○歌詞の内容や楽譜を読み取り、感じ取ったイメージを基に、自分の思いを伝え合い、表現を工夫する。 ・思いや意図を共有する。	
	4	・パートに分かれて、表現を工夫する。 ・大切に歌いたい箇所を抜き出し、表現を工夫する。	
	5	・他のパートの工夫したところに気づき、自分達の表現に取り入れる。 ○自分達の演奏の録音を聴き、表現の工夫を確認し、合唱を仕上げる ・自分達の課題を見つけ、改善する。	

7 本時の学習 (4 / 5)

(1) 本時の目標

○歌詞の内容と曲想を関連付けて考え、表現を工夫する。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり◆評価規準 (評価方法)
5分	1 雰囲気づくりをする。 ・発声練習をする。 「出し切り」「あえいおう」 ・「校歌」を合唱する。 (3番のみ) ・「友」を合唱する。 (G・Hのみ)	○姿勢、口の開け方、呼吸等に気をつけ、発声できているか確認する。 ○本時の活動につなげられるように前回見つけた課題を意識しながら歌わせる。 ○音程が心配な所はピアノでパートの音を弾く。
	2 本時の目標を確認し、ワークシートに記入する。	○本時の目標を確認する。

		G・Hの歌詞の内容と曲想の関りを考えて歌えるようにしよう。
3分	3 詩の朗読をする ・ G・Hの歌詞をパートで読む。	○課題との関わりを意識できるように棒読みにならないで、語るように読ませる。 ○強弱をつけて読ませる。
7分	4 個人の思いや意図を共有し、パートで表現の工夫をする。 ・各パートで工夫したいことを、それぞれ発表しあい共有する。 ・パートで意見をまとめ、フラッシュカードに記入し、ホワイトボードに貼ってある拡大楽譜に貼る。	○パート会議が課題の達成に向けて行われているかを確認しながら巡回し助言する。 ○記号の確認だけにとどまらず、曲想について確認し合わせる。 ○なぜその記号がついているのか、歌詞から考えさせる ○発音、発声について考えさせる。 ○グループ全員が、自分の思いを伝えるように促す。
20分	・パート練習で表現の工夫をする。(ソプラノとアルト) ・ピアノの周りに集まり、2パート合同で表現の工夫を共有する。(テノールとバス)	○活動を確かめられるように強弱や声の出し方、響きなど工夫して歌いたいところに、練習したいことを書いたフラッシュカードを拡大譜に貼らせる。 ○効率的にできるように部分的に抜き出して練習するよう助言する。 (パート別CD) ○テノールとバスのフラッシュカードに書かせた意見を確認し、それぞれの工夫点を歌わせながらひとつにまとめていく。その間、ソプラノとアルトはパート練習で表現を工夫させる。 <予想される歌詞の内容と関連した生徒の考え> (男声パート) ・とも 語りかけるように ・さようなら 名残惜しげに 大切に ・再び会える しっかり歌う 期待をもって ・同じ空の下 はっきりと ・どこかで 目立たせて はっきりと ・輝いている 柔らかく 明るい声で ・いつも たっぷりと ・つながっている 期待を込めて 大切に
	・パート練習で表現の工夫をする。(テノールとバス)	○効率的にできるように部分的に抜き出して練習するよう助言する。(パート別CD)

	<p>・ピアノの周りに集まり、2パート合同で表現の工夫を共有する。(ソプラノとアルト)</p>	<p>○ソプラノとアルトのフラッシュカードに書かせた意見を確認し、それぞれの工夫点を歌わせながらひとつにまとめていく。その間、男声はテノールとバスは、パート練習で表現を工夫させる。</p> <p>〈予想される歌詞の内容と関連した生徒の考え〉</p> <p>(女声パート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう・・・気持ちを込めて 大切に 弱くけどたっぷり ・オブリガード・・・柔らかな声で 優しく きれいに ・空の下・・・男声を消さないように 大切に 柔らかく ・輝いている・・・柔らかく 明るい声で ・いつも・・・柔らかく ・つながっている・・・期待を込めて 大切に <p>(音楽表現の創意工夫)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 〈楽譜〉</p> </div>
10分	<p>5 確認し練習した内容を意識しながら、G・Hを合唱する。</p> <p>・合唱をし、今日の成果を確認する。</p>	<p>○拡大楽譜の工夫点を確認しながら合唱する。</p> <p>(音楽表現の技能)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法、体の使い方を身に付けて歌っている。 〈観察〉</p> </div> <p>○曲想を生かした音楽表現ができていない生徒には、パートリーダーの歌声を聴きながら歌うようにさせる。</p> <p>○歌詞の内容と曲想を関連付けて考え、共有することで、より表情豊かに合唱できているか確認のために録音して聴く。</p>
5分	<p>6 本日の振り返りをし、ワークシートに記入する。</p> <p>7 次回の学習について知る</p>	<p>○パートリーダーに目標が達成できたか発表させる。</p> <p>○録音を聴いて、改善した点や課題を見つけ、次の練習につなげることを伝える。</p>

曲名「友 ～ 旅立ちの時～」

私のパート

年 組 番 名前

作詞		作曲		編曲	
拍子		調子		速さ	

卒業式に向けての思いを書こう

合唱練習の評価項目

- ① 態度・・・積極的に声を出し、意欲的に歌った。
- ② 姿勢・・・正しい姿勢を意識して歌った。
- ③ 口形・・・口をしっかりと開けて表情豊かに歌った。
- ④ 声量・・・腹式呼吸を意識して、遠くに響く声で歌った。
- ⑤ 音程・・・正しい音程やリズムで歌うことができた。
- ⑥ 曲想・・・強弱や歌い方などを意識し、歌詞の内容を感じながら歌った。

- A・・・完璧
- B・・・だいたいできた
- C・・・もう少し
- D・・・ぜんぜんダメ

月 日	目 標	① 態 度	② 姿 勢	③ 口 形	④ 声 量	⑤ 音 程	⑥ 曲 想	今日の成果、次回頑張りたいことなど を書こう。	今日の MVP は??	検 印
	個人目標									
()		A	A	A	A	A	A			
		B	B	B	B	B	B			
		C	C	C	C	C	C			
		D	D	D	D	D	D			
()		A	A	A	A	A	A			
		B	B	B	B	B	B			
		C	C	C	C	C	C			
		D	D	D	D	D	D			
()		A	A	A	A	A	A			
		B	B	B	B	B	B			
		C	C	C	C	C	C			
		D	D	D	D	D	D			
()		A	A	A	A	A	A			
		B	B	B	B	B	B			
		C	C	C	C	C	C			
		D	D	D	D	D	D			

【学習の振り返り】「友～旅立ちの時～」思いを込めて歌うための工夫を書こう